

技能統合型の学習を通して、質の高い英語のやり取りを行える生徒を育てる

－ 3人グループの対話と EBB ルーブリックを活用した、読んだことに基づいて話すこと（やり取り）の研究－

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 言語・社会科学系（英語）

鈴木 理雄

本実践では、中学校における3人グループの対話と EBB ルーブリックの活用を中心においた、読むことと話すこと（やり取り）の技能統合の指導に焦点をあてた。「質の高い英語のやり取り」を、「即興で、考えや気持ちを整理し、意見を出し合ったり情報交換をしたりする過程で、切り返しをすることで対話の精緻化を図り、賛否の理由や根拠を示せること」と定義し、その実現のために様々な手立てを講じた。

研究の成果として、長期に及ぶ帯活動型の学習指導が、「技能」の向上や「言語不安」の軽減に関する項目において、生徒の自己評価に肯定的な効果を及ぼすことや、「内容」「正確さ」「流ちょうさ」といったパフォーマンステストにおける技能を伸ばしていくことに効果的であるということが示唆された。また、授業で使用したワークシートの振り返り、定期的に行った Can-do リスト形式の振り返り、単元後に行った記述式アンケートからは、多くの生徒が活動に対して難しさを感じる一方で、技能面において達成感を感じていたことがわかった。